

瓢湖

(ひょうこ)

位置：北緯37度50分、東経139度14分／標高：8.6m／面積：24ha／湿地のタイプ：貯水池、ため池／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：新潟県阿賀野市／登録：2008年10月／国際登録基準：2、3、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：貯水池、ため池



ハスの花咲く夏の瓢湖



瓢湖の桜



冬の瓢湖

湿地の概要：

新潟平野の北東部から内陸に寄った、福島県から流れ下る阿賀野川が蛇行する平坦な低湿地帯は、見渡す限りの水田である。瓢湖は、その穀倉地帯の中心部、阿賀野市(旧水原町)にある小さな池である。

江戸時代初めの1639年に造られた灌漑用のため池で、当時は南側にもうひとつ池があり瓢筆状の形をしていたが、一部が埋められ、現在は、その面影はみられない。

1991年に東新池、2000年にさくら池、あやめ池が新たに造成されて四つの池となり、全体として約30ヘクタールの瓢湖水きん公園となった。現在は、灌漑用水としての役割は終えている。

水深は平均0.7m、最大1.2mと浅く、周辺の川から取水しているが、ほとんど流れのない静水池で、オニビシやハスなどが繁茂し、岸边にはヨシやマコモが生えている。

池畔には桜が植えられているが、堤が低く平坦なため、どこからでも池全体を眺めることができる。

瓢湖は「白鳥の湖」：

瓢湖は江戸時代から殺生禁制の池で、明治以降も慣例的に狩猟を禁じてきたため、水鳥の楽園となった。現在も毎年、コハクチョウなどハクチョウ類約6,000羽、オナガガモ、マガモ、コガモ、ホシハジロなどガンカモ類3万羽以上が採餌の場、ねぐらとしている。

とくにハクチョウは、1954年に初めて給餌に成功し、「白鳥の湖」として瓢湖の名を全国に広め、野鳥保護運動に大きな影響を与えた。現在も住民参加の保全活動が、地元の小学校の子どもから高齢者まで幅広く行われている。

こうした歴史的な経緯、地元住民の保護努力によって瓢湖では、ハクチョウなどの水鳥のようすを目の前で観察することができる。

新潟平野の湿地ネットワーク：

新潟平野には瓢湖のほか佐潟(ラムサール条約湿地)、鳥屋野潟、福島潟など、穀倉地帯の餌場に囲まれた水鳥にとって安全なねぐらが点在している。

【コハクチョウ】 瓢湖のハクチョウは90%がコハクチョウで、10月中旬～3月中旬迄滞在し、瓢湖や周辺水田を採餌とねぐらに利用する。毎朝6時半～9時ごろ飛び立ち、周辺の田んぼで落穂などを食べ、午後3時ごろに戻る。幼鳥をつれ家族単位で行動する。給餌に頼るのは主に傷病個体などの一部。一方、夜行性のカモ類は逆に、昼間を瓢湖で過ごす。

●関係自治体

阿賀野市役所 Tel: 0250-62-2510

